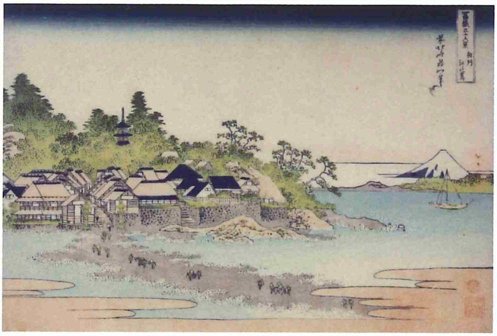
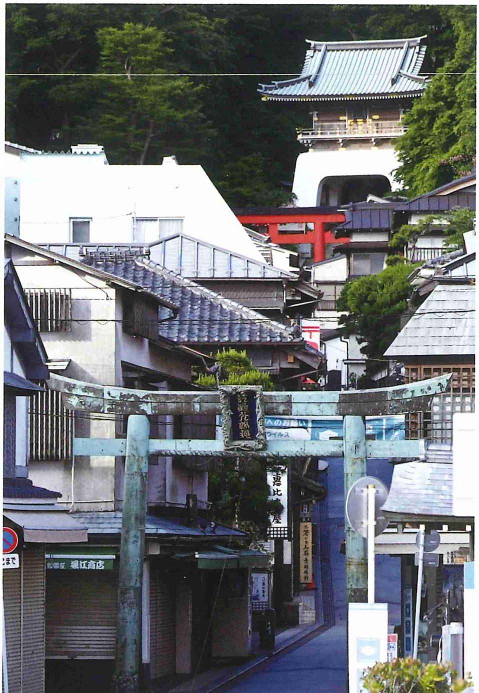
Katase History MAP

片瀬
歴史マップ



藤沢市教育委員会所蔵



1 馬喰橋（うまくらばし）

源頼朝がこの川に馬の鞍を架け、橋の代わりにしたという伝承から馬鞍橋とも呼ばれています。また、昔、馬がこの橋にさしかかると突然死んでしまうことから馬殺橋とも呼ばれていましたが、ある時、行者聖が橋の石を取り替えてから災難はなくなったと伝えられています。この付近は江戸時代には江の島参詣の往来や水上交通の拠点としても賑わっていましたが、境川の洪水などにより橋は幾度となく流され、往来の人々を困らせました。

2 片瀬湊（かたせみなと）

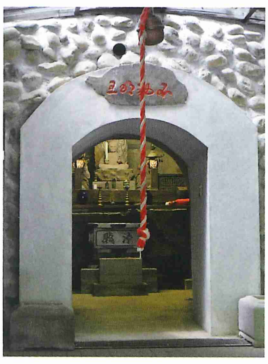
馬喰橋より下流 100m ほどのあたりは「河岸」（荷揚げ、荷積みの場所）と呼ばれており、江戸時代から明治時代にかけて地域流通の拠点の湊でした。この片瀬湊の様子は天保年間の絵図にも描かれています。片瀬湊からは藤沢地域の産物である麦・大豆・木材等の物資を江の島の西浦へ廻船で運び、西浦で親船に積み替え、江戸をはじめとした他の地域に輸送しました。入れ代わりに塩・酒・肥料等の他の地域の産物が陸揚げされていました。

境川橋から上流を撮影した写真

3 岩屋不動尊（いわやふどうそん）

弘法大師が穴居修行をした場所と伝えられており、その後、元禄 8 年（1695）に快祐上人が石籠山救法教寺を開いて、不動尊を安置しました。快祐上人は、寛文 3 年（1663）に片瀬に生まれ、延享元年（1744）12 月 6 日、83 歳の時、この岩屋で入定し即身成仏したと伝えられています。後に、石籠山救法教寺は廃寺となり、泉蔵寺の隆誉上人が再興しました。

不動尊像は、日輪をかたどり「御宝前」と刻まれた台石上に、火焔を背負い玉眼入りの眼光を輝かせ、口を真一文字に結び、右手の剣、左手に戒めの縄をもって構えています。



4 泉蔵寺（せんぞうじ）

鎌倉時代の嘉禄 2 年（1226）、鎌倉幕府 3 代執権北条泰時により和田一党の霊を鎮めるべく創建されたと伝えられています。創建当初に、泉蔵寺が建てられた場所は、片瀬川に近い鯨骨[1]でしたが、元弘3年（1333）の新田義貞の鎌倉攻めの兵火に遭い、永正 3 年（1506）に現在地に移転再建されたそうです。かつて中世の頃の片瀬川の流れは今よりもずっと東寄りで現国道467号線に沿って流路があったといわれています。

[1]片瀬2～4丁目、片瀬海岸1丁目の当たりを示した小字。

5 諏訪神社（すわじんじゃ）

上下社共に、片瀬の鎮守として鎌倉道を隔てて相対して鎮座しています。養老7年（723）に信濃の諏訪大社から勧請され、御分社として最古のものといわれています。当初、諏訪ヶ谷にあった上社は天長３年（826）に現在地の浪合[2]に、下社は弘仁 3 年（812）に宮畑[3]から鯨骨に移されたと伝えられています。新田義貞の鎌倉攻めで社殿を焼かれた上社は貞和 3 年（1347）に下社と共に再建され、以降、上下社共に江戸期や昭和期にも改築されています。

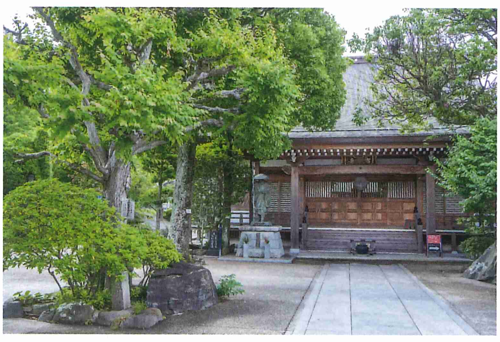
諏訪神社＜下社＞

上諏訪神社＜上社＞

[2] 片瀬山5丁目と片瀬2丁目の辺りを示した小字。
[3] 片瀬 1 丁目と片瀬山 1 丁目の辺りを示した小字。

6 密蔵寺（みつぞうじ）

鎌倉時代末期に宥弁和尚によって開山され「寶盛山薬師院密蔵寺」と号されました。境内中央には女優の故木暮実千代さんが植樹した桂の木があります。本尊の愛染明王の前にある桂の木ということで「愛染かつら」と名付けられました。愛染明王とは、煩悩がそのまま悟りを求める心であることへの悟りを導く明王として信仰され、また「愛」と藍染めの「藍」を通じて、昔より染物業の方々にも信仰されています。



7 一遍上人地蔵堂跡（いっぺんしょうにんじぞうどうあと）

時宗の開祖である一遍上人が、踊り念仏を行ったとされる場所です。遊行の旅を行っていた一遍上人一行は、弘安 5 年（1282）3 月 1 日に鎌倉に入り布教しようとしましたが、鎌倉幕府に拒否されます。そのため片瀬に移り地蔵堂で念仏布教を行い、あらゆる階層の多くの人々が集まったとされています。ここでの布教は 4 ヵ月半に渡り、全国を回っての布教の旅で最も長い滞在場所となっています。

8 本蓮寺

推古天皇3年(595)、義玄和尚により開山されたと伝えられ、元暦元年（1184）源頼朝により再建されました。文治元年（1185）には頼朝の父である義朝の遺骨が朝廷から届けられた際に、この地で供養したといわれています。文永８年(1271)には龍ノ口での処刑を逃れた日蓮聖人が本蓮寺で休息したといわれています。その他にも鎌倉幕府 6 代将軍宗尊親王の歌碑が現存しており、1400年以上の歴史をもつお寺です。

9 西行戻り松

現在の松は植え替えられたものですが、江戸時代にはすでに片瀬の名所とされていました。昔、見事な松があり、東国へ下る途中の西行がこの地を通った際に、「その枝振りの見事さに都が恋しくなり、都の方を見返って枝を西にねじった」と言い伝えられています。そのため「見返り松」とも「ねじれ松」とも呼ばれていました。そして西行は京の都の恋しさから行きつ戻りつ立ち去りかねて名残惜しんだといわれています。

また、一説には西行がこの地で童に「どこに行くのか」と問いかけ、「夏枯れて冬ほき草を刈りに行く」と歌を詠んだところ、西行はこの歌の意味が分からず、恥ずかしさから都に引き返したという言い伝えがあります。

10 常立寺

秋の黄葉の様子

もとは真言宗の寺でしたが、天文元年（1532)、日豪上人が日蓮宗に改宗しました。この辺りは龍ノ口の刑場跡で処刑された人を埋葬し、回向供養したところといわれています。山門を入った左側に五基の五輪塔が安置されていますが、これは元のフビライの国書を持ってきた五人の使者が北条時宗の命で龍ノ口にて処刑され、その人々の墓と言われており、「元使塚」と呼ばれています。

平成 19 年（2007）3 月にはモンゴル大統領夫妻が元使塚を参拝しています。また、しだれ梅の名所としても有名です。

11 カトリック片瀬教会

キリスト教の教会としては大変めずらしい和風建築の建物が特徴です。昭和 14 年（1939）に建てられ、教会のシンボルの十字架は、屋根上ではなく建物の軒下に小さく据え付けられており、脇の漆喰の白壁に施された天草四郎の陣中旗の図柄を真似たという天使像は必見です。聖堂内部は、祭壇の正面の床の間に 2 つの掛け軸、壁には 14 枚の淡彩画が飾られており、いずれも日本画家・カトリック美術家として知られる長谷川路可による作品です。

12 湘南モノレール湘南江の島駅

湘南モノレール株式会社提供写真

湘南モノレールは昭和 45 年（1970）に大船～西鎌倉間で営業が開始され、翌年昭和 46 年（1971）には西鎌倉～湘南江の島間も開通しました。国内の公共交通機関としては初の懸垂式モノレールで、令和 3 年（2021）で全線開通 50 周年を迎える歴史ある乗り物です。湘南江の島駅は平成 30 年（2018）に建て替えられ、全館バリアフリー化されました。建物の 5 階にホーム・改札があり、改札を出てすぐのルーフテラスからは富士山や相模湾の眺望を楽しむことができます。

13 龍口寺

鎌倉時代後期の文永 8 年（1271)、日蓮聖人は鎌倉幕府に捕らえられ処刑されそうになります。9 月 12 日夜、日蓮聖人を敷皮石に座らせ、斬首の準備をしていた時、江の島の方から満月のような光が飛んできました。光を恐れた首切り役人は目がくらみ倒れ、斬首の刑は中止となりました。また、日蓮聖人が連行される時に近所の老婆が道中で食べるようにと牡丹餅を日蓮聖人に差し出したという故事にちなみ、今でも 9 月 12 日の法難会には牡丹餅が参詣客にまかれます。延元 2 年（1337）直弟子の日法聖人により一堂を建立しました。境内には県内唯一の木造の五重塔があります。

また、令和 3 年（2021）2 月 26 日に妙見堂、大書院、鐘楼、手水舎が国の登録有形文化財に登録、同年 10 月 1 日に本堂、山門、五重塔が市の指定重要文化財に指定されました。

14 龍口明神社 旧社

言い伝えによれば昔、深沢の沼に五つの頭を持つ龍（五頭龍）が住んでいて、周囲に住む人々を苦しめていました。欽明天皇13年（552）に江の島が隆起して現れ、舞い降りた天女（弁財天）に一目ぼれし、求婚するが五頭龍の非道な行いを理由に天女に断られてしまいました。改心した五頭龍は人々を助け村人から愛され、天女と夫婦となり、死後は山となってこの地を守りたいと龍口山となりました。人々は五頭龍の徳をたたえて龍の口にあたる地に社をつくったといわれています。

龍口明神社は昭和 53 年（1978）、龍の胴にあたる鎌倉市腰越に移転しました。

15 江ノ島電鉄江ノ島駅

明治 35 年（1902）に藤沢～江ノ島（当時の駅名は片瀬）間が開通し、さらに 8 年後には終点の小町（現在の鎌倉駅）までの全線が開通しました。江ノ島駅は平成 3 年（1991）に改築され現在の駅舎となりました。駅を乗り降りする際に見て頂きたいのは、藤沢行きホームの 1 番線に設置されたジオラマと、待合室にある昭和 31 年（1956）から活躍した 300 型の 303 号車の運転台カットモデルです。江ノ電の歴史と楽しさを味わうことができる展示がいっぱいの駅です。

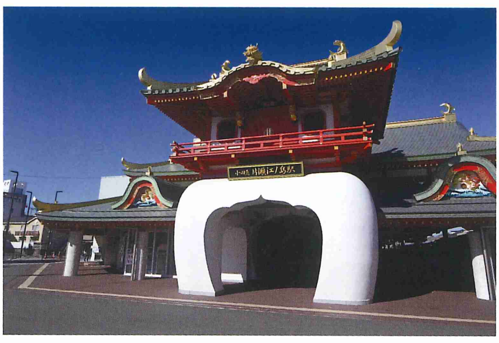
16 玉屋本店

玉屋本店は明治45年（1912）、すばな通りに初代依藤浅吉が開業しました。江の島詣のお土産として作られたのり羊羹は、当時江の島で獲れた青のりを粉にしたものを白餡に練りこみ、磯の香り豊かな珍しい一品です。店舗兼主屋は出桁造の軒や一階前面を硝子戸で開放する点に関東町屋の特徴が見られ、ステンドグラスの欄間や軒周りの銅板細工など商店建築らしい意匠を備えています。令和 2 年（2020）に国の登録有形文化財に登録されました。

17 新江ノ島水族館

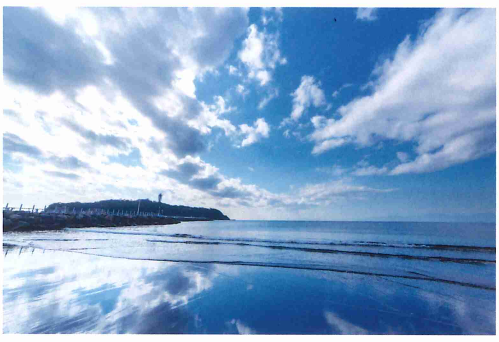
昭和 29 年（1954）戦後の日本近代的水族館第 1 号として創立し、半世紀後の平成 16 年（2004）にリニューアルしました。最大の見どころは相模湾の再現です。相模湾は水深が深く入り組んだ地形であること、暖流と寒流が交差していること、自然豊かな丹沢山系があることの 3 つの条件が揃っており、世界でも屈指の海洋生物の宝庫といわれています。相模湾大水槽は 8000 匹のイワシの大群が泳ぎ、岩場や海底、波まで再現され、魚たちを目の前で観察することができます。

18 小田急電鉄片瀬江ノ島駅



昭和 4 年（1929）4 月に江ノ島線開通と同時に開設され、平成 11 年（1999）には「関東の駅百選」に認定されました。令和 2 年（2020）7 月に完成した新駅舎は、先代のデザインを引き継ぎ、神社仏閣の技法である竜宮造りを取り入れ、「五頭龍と天女の伝説」をイメージした装飾が施され、屋根上にはイルカの像を設置しています。また改札内コンコースには、新江ノ島水族館とコラボレーションした「クラゲ水槽」があります。四季にあわせたライトアップも行い、昼夜ともに地域のシンボルを目指しています。

19 片瀬西浜海岸



片瀬西浜海岸は片瀬漁港から西の鵠沼海岸へ続く砂浜です。令和 3 年（2021）ブルーフラッグ認証を取得したきれいな砂浜です。新江ノ島水族館もここにあります。夏には海水浴場として海の家が立ち並びます。サーフィンも盛んな海岸で、初心者からベテランまで楽しめるエリアです。また、魚も豊富で地引網、シラス漁も行われています。片瀬漁港に隣接して野外ステージもあり、ここからの富士山の眺めがきれいです。

20 片瀬東浜海岸

江の島へ続く砂浜が片瀬東浜海岸です。日本の海水浴場５５選にも選ばれており、初日の出の名所としても有名です。大潮の干潮時には江の島が陸続きになります。これを「トンボロ」と言います。江の島が日本のモンサンミッシェルのようになり、その姿は江戸時代から人々をひきつけ浮世絵にも多く描かれています。さらに干潮時には砂浜に海水が残って空が写りこみます。まるでウユニ塩湖のようです。ぜひ干潮のタイミングであればご覧ください。

片瀬 歴史マップ

江の島道は、江戸時代から多くの参詣者を運ぶ信仰の道として、東海道藤沢宿の開設より約 400 年間にわたり常に交流の中心となっていました。そのため、道中には神仏への信仰をはじめとした、文化の交流が育んだ歴史文化遺産が連なっており、多くの先人達がその足跡を残しています。ゆかりの一人でもある杉山検校（すぎやまけんぎょう）は、幼いころに失明し、鍼術（しんじゅつ）の道を志すものの、技術が向上せずに破門され、江の島弁財天の岩屋で修業を行いました。その時、啓示により管鍼術（かんしんじゅつ）を授かり、鍼（はり）の名人として江戸で有名になりました。さらには江戸幕府 5 代将軍徳川綱吉（とくがわつなよし）の持病を鍼で治した功績により、総検校（そうけんぎょう）の位を得ました。江の島での啓示により、杉山検校は江の島弁財天への信仰が篤く、江の島詣の人々や目の不自由な人々のために江の島道の各所に道標を建てたと伝えられています。また、江の島道の周辺には、人々の往来の歴史を物語るように道祖神や庚申塔など路傍の神とされる石仏も、地域の守り神として建てられています。

片瀬・江の島まちづくり協議会の郷土文化推進部会では、藤沢の歴史にゆかりのある先人たちが辿った江の島道を守り、歴史的魅力を広く伝えていき、未来へ繋げていきたいと思います。

片瀬歴史マップ
第 1 版　2022 年 3 月

発行：片瀬市民センター
編集：片瀬・江の島まちづくり協議会
郷土文化推進部会
住所：藤沢市片瀬 3-9-6
電話：0466-27-2711
写真提供：永田　勝